

わしのみや ウコンザクラ
 鷲宮神社の鬱金桜

加藤良一 令和5年(2023)4月8日



埼玉県久喜市の鷲宮神社に、ソメイヨシノなどより開花が遅いウコンザクラがぽつんと一本だけある。その木は鳥居をくぐってすぐの左手にあり、毎年三月下旬にソメイヨシノが満開となっても、ひっそりと目立たず、開花を待っている。枝ぶりはさほどでもない。そして、他のサクラが花盛りを過ぎ葉桜になりかかる頃、ようやく白っぽい花を開き始める。



鷲宮神社は、関東最古の大社とされており、ここで奉演される「鷲宮催馬楽神楽」は国の重要無形民俗文化財に指定されている。祭神は、天穂日命、武夷鳥命、大己貴命で、歴史書「吾妻鏡」にも記述がある。

ウコンザクラ

植物学者牧野富太郎の『牧野新日本植物図鑑』にウコンザクラはなぜか収載されていない。



ウコンザクラは、オオシマザクラ系のサトザクラであり、江戸中期以前に人の手によって作られた品種と考えられている。花の直径は3~4cmほど、10~20枚の黄色・黄緑・緑色の花弁が重なり合う八重咲きとなる。日本原産の栽培品種で、名前はショウガ科のウコンの根を染料に用いた鬱金色に由来する。緑色のクロロフィルが少ないため黄緑(淡黄色)に見えるといわれている。



ウコンザクラ

ウコンザクラは、黄色い花を咲かせる唯一の桜であり、清酒「黄桜」はこの花にちなんでいる。

咲き始めは鬱金色あるいは薄緑色だが、しだいに白くなり、最後は中心部からピンク色に変わっていく。葉の長さは5～8センチほどで縁にはギザギザがあり、先端は細く尖る。秋になると紅葉する。樹皮は他のサトザクラ同様の灰褐色で光沢があり、樹齢を重ねると立体的な横筋が入る。



大方のサクラは満開を過ぎてしまった



ウコンザクラによく似たギョイコウ

鷲宮神社にはないが、ウコンザクラに似たギョイコウ(御衣黄)という桜がある。ウコンザクラと同じようにオオシマザクラを基に生まれた日本原産の栽培品種の桜である。名前は貴族の衣服の萌黄色に近いところからつけられた。江戸時代に京都の仁和寺で栽培されたのが始まりとされる。

ウコンザクラやギョイコウの最大の特徴は、黄色・黄緑・緑色系の花を咲かせることである。DNA解析により枝変わり※の可能性が指摘されている。



ギョイコウ

※枝変わりとは、植物のある枝だけに、新芽・葉・花・果実などが、成長点の突然変異などによって、その個体を持っている遺伝形質とは違うものを生じる現象。動物では、体細胞の突然変異が新たな個体に反映することはまずあり得ないが、植物では成長点から先へ先へと体が作られてゆくため、変異しなかった部分と区別され、形質として固定する可能性がある。この枝を挿し木すれば、新しい品種となる可能性がある。園芸植物に出る場合は、多くの場合、斑入り葉が無地になったり、八重咲きの花が一重になるなど、親より劣ったものになるが、まれに親より優れたものや、新品種として残しておく価値のあるものが出現することもある。温州みかんでは枝変わりによる品種が多く登録されている。

ギョイコウは、花弁に黄色のカロテノイドと緑色のクロロフィルを含む葉緑体をもつ性質はウコンザクラと同じだが、ウコンザクラは緑色のクロロフィルが少量のため黄緑(淡黄色)に見え、ギョイコウはクロロフィルが多量のためより濃い緑色に見えると考えられている。似たような桜には、スマウラフゲンゾウ(須磨浦普賢象)、ソノサトキザクラ(園里黄桜)、ソノサトリョクリュウ(園里緑龍)などがあるという。

境内裏手の雑木林のはずれに紫色の可憐な花がひと群れ咲いていた。

庭の手入れをしている方に聞いても、いつの間にか生えてきた、何の花か知らないという。どうも大根の仲間らしいが、根は髭のように細いという。



桜が終る頃に境内に彩りを与えてくれるので、歓迎されている。

【関連情報】

- [◆mm20230324](#) 「桜とフロリンゲン」 加藤良一 令和5年(2023) 3月24日
- [◆mm20220420](#) 「天下第一の桜 ^{たかとお}高遠小彼岸桜」 加藤良一 令和4年(2022) 4月20日
- [◆mm20220330](#) 「^{わしのみや}鷲宮神社の桜 関東最古の大社、お酉様の本社」 加藤良一 令和4年(2022) 3月30日
- [◆mm20220303](#) 「牧野新日本植物圖鑑」 加藤良一 令和4年(2022) 3月3日
- [◆E-3](#) 「花見」 久賀伸之 平成14年(2002) 3月



[虫めがねTopへ](#)



[Home Pageへ](#)